

DARBY HOUSES

ローズヒル・ハウス

ローズヒル・ハウスは、リチャード・フォードの邸宅として 1738 年頃に建てられました。当時リチャードは、アブラハム・ダービー I 世 (~ 1717 年) が社長を務めるコールブルックデール社で働いており、その後、コールブルックデール・アイアンワークス社のマネージャーになりました。妻はアブラハム・ダービー I 世の長女、メアリーです。

ローズヒル・ハウスは、1850 年頃に修復され現在の姿になりました。ここにはダービー家ゆかりの品々がたくさん収められています。19 世紀半ばにはアブラハム III 世の末っ子リチャードと妻のマリアが住み、1860 年にリチャードが亡くなると、その後は娘のレベッカが 1908 年に亡くなるまで住んでいました。



ダービー家はクエーカー教徒だったため、ローズヒルは、ビクトリア中期の他の家に比べ非常に簡素な造りになっています。使用人も少なく、1851 年にはローズヒルとデールの家を合わせてたった 4 人でした。2 つの家の大きさを考えると、その当方で 12 人以上は必要だったと思われます。

ホール

ホールに飾られている絵画は、アブラハム・ダービー I 世が晩年を過ごしたマデレイの屋敷です。この絵の両側には、19 世紀にこの家に住んでいたリチャードとマリア・ダービー夫妻の肖像画が飾られています。

書斎

この部屋は、執務室として、また不動産や一族に関する書類の保管室として使用されていました。暖炉の上にはフランシス・ダービーの肖像画が掛けられています。

1850 年、照明にはオイルと蠟燭が使用されていました。パラフィン、それより後の 1859 年に発見されました。

ヤドリギ柄の壁紙は、家の修復で発見された当時の壁紙を再現しています。

ダイニング・ルーム

この部屋は、一家の食事やお客様のもてなしに使われました。暖炉の両側を飾る大きな肖像画は、アルフレッド・ダービーI世とレベッカ・ミラー・クリスティです。

窓ぎわにはワイン棚があります。クエーカー教では、アルコールは控えなければいけません、禁止されていません。またお客様のもてなしにもワインは欠かせませんでした。

階段と踊り場

壁の2つの小さな絵は、コンベックス・ガラスを使用しています。1つは、1779年当時のアイアン・ブリッジ、そしてもう1つは1796年のサンダーランド・ブリッジです。上の踊り場の絵は、アルフレッド・ダービーI世の母親、ルーシー・バーリンガムです。アルフレッド・ダービーI世の肖像画はダイニング・ルームにあります。

ベッドルーム

この部屋は、リチャード・ダービーの末娘、1832年に生まれたレベッカが使用していた当時の様子を再現しています。鉄製のベッドは1835年の製造です。ベッドの向こう側には小さなキャビネットがあり、室内用便器が収納されています。

窓ぎわには2つの刺繍は、ハンナ・ブルック (1772年制作) とハンナ・グラント (フランシス・ダービーの妻) の作品です。また、トルコ石とゴールドのスピル・ベース (蝋燭に火を灯すためのもの)、蝋燭立て、そしてスタンドは、コールポート社の1840年代の作品です。



応接室

この部屋は、女性たちが昼間集まり、読書や縫い物、絵画を楽しんだ場所です。また、食事の後の客間としても使われていました。

壁紙は、修復時に見つかった当時のものと同じ柄が使われています。

展示部屋

展示部屋には、クエーカー教の本や一族に関する文書のほか、石の杯、象牙のおもちゃ、ビーズの財布など、ダービー家ゆかりの品が展示されています。またクエーカー博物館収蔵の衣装もあります。

キッチン

キッチンは、リチャードと MARIA が引っ越す以前の 1810 年に行われた改築の際に増築されました。大きなオーブン、温水タンク、ホブを暖めるための小炉など、当時としては最新の設備が整っています。洗い場と食料保存室はキッチンからつながっています。

デール・ハウスの歴史

デール・ハウスは、コールブルックデール社の創立者、アブラハム・ダービー I 世が建てたものです。1717 年に完成したこの家は、ダービー家の 5 世代に渡る家族に受け継がれました。アッパー・ファーニス・プールとその溶鉱炉を見渡すこの家は、家族や製鉄所の訪問客をもてなす場でもありましたが、ダービー家にとって本当に寛ぐことができる、かけがいのない家でした。

ホール

1776 年には、アブラハム・ダービー III 世 (アブラハム・ダービー I 世の孫、1750 ~ 1789 年) が住んでいました。1768 年から 1776 年にかけて増築され、屋根裏を 3 階フロアにし、窓枠とリントルを鋳鉄製にして、インテリアを実用性のあるものに変えました。それ以降、家屋と庭の改築は行われていません。ダービー家は成功した企業家一族ですが、クエーカー教徒として、内部はとてもシンプルなものになっています。



書斎

アブラハム III 世は、1776 年から 1780 年までデール・ハウスに住み、この部屋からアイアン・ブリッジ建設の指示を出していました。1780 年に近くのヘイ・ファームへ引っ越して峡谷とアイアン・ブリッジを眺めながら晩年を過ごし、1789 年にしょう紅熱で亡くなりました。

応接室

アブラハム・ダービー I 世は、自分が建てたこの家に住むことはありませんでしたが、完成間近の 1717 年に、この応接室で開かれたクエーカー教の集まりには参加しました。残念なことにアブラハム I 世は同年 5 月 6 日にこの世を去りました。遺体はデール・ハウスの応接室に安置され、その後、ブロズリーの川向こうにあるクエーカー教の共同墓地に埋葬されました。

